

【全訳】

京アニ 無二の職人集団が築いた名声

「京都アニメーション」第1スタジオでの放火殺人事件から2週間が経ち、犠牲になった命を悼む声とともに支援の輪が国内外で広がっている。ここには、「京アニ」の名で知られる同社が日本のアニメ文化の原動力となり、他の追随を許さないアーティスト達を育てたという信頼を通して培ってきた敬意の念が反映されている。

キャラクターを生き生きと表現するという京都アニメーションの力は「京アニクオリティ」と呼ばれている。この繊細な美しさが特徴的に表れているのは、2013年に最初のテレビ放送が行われた人気アニメ「Free!」だ。

夜の海辺のシーン。高校水泳部の部員達が、学校生活最後の夏に共有した思い。全国大会で闘うプレッシャー。東京の大学からのスカウト。月明かりを映して揺れる海と遠くに見える打ち上げ花火が若い部員達の内面を繊細に描き出す。

こうして細部までこだわって作画することで、キャラクターの感情を色鮮やかに描き出し、躍動感を与えることができる。京都アニメーションは、テレビアニメの常識を超えると広く賞賛された。

高品質な作品を支えるのは、自社で全行程を担う一貫性だ。従来、分業が一般的なアニメ業界で、同社のやり方は異例だった。例えば、原画と原画の間を何枚もの絵でつなぐ動画の仕事は一般的に外注されることが多い。だが、京都アニメーションではこれを自社で手がける。

「(2)躍動感や可愛らしさを表現したい場合で、これが流れるような動きがなければ伝えられないものであるなら、手を抜かずに全てを自らやり切らなければならない、という決意が京アニにはある」と、京都文化博物館の室長は語る。

「彼らにとって重要なのは、描かなければならない動画枚数ではない。むしろ、自分達の思っている表現に届いているかが問題。妥協はしない。良い動きになったと確信できるまでやり続ける。そうしたことが同社の高品質への信頼を作り上げている、ということを否定できる者はいないでしょう」

同室長は京都アニメーションと様々な企画やイベントで関係を深め、同社の作品のための取材交渉にも携わってきた。彼の話からは、京都アニメーションというスタジオの特殊性がはっきりと浮かび上がってくる。

「スタジオに入ると、机の上で鉛筆が走る音がいきなり聞こえてきてびっくりしたんです。若い子達が作画をする音でした」と彼は話した。

「どの線も、まるで手描き友禅みたいで本当に綺麗なんです。みんな職人だ、というのが第一印象」

日本動画協会によれば、2016年時点でアニメ制作会社の約9割が東京に集中しており、フリーのアニメーターも東京に集まりがちだった。この傾向に反して、京都アニメーションでは自社で後進を育成してきた。

「京都アニメーションは独立独歩の精神が強い。それは東京と違ってフリーランスが

少ないということもあるが、社員をきちんと育てることに重きが置かれているというのが大きい。先輩は後輩のフォローをきっちりとやる」と、同室長は言う。

「監督クラスの人でも、名声を独り占めすることなく、『作品の高評価は自分の力じゃなくてスタッフ全員の力』と言うような組織だ。性別に関係なく、本当に有能な人材をどんどん輩出している」

京都アニメーションでは、従業員が安定した生活を送れるような環境づくりも試みている。スタジオに育児スペースを作るなどといった方法でそれを実現している。同室長によれば、良いアニメを作る上でこういうことが大切だと同社は考えている、という。

1981年の創業から約40年以上にわたり、同社は精鋭の職人集団を丁寧に作り上げてきたのだ。